



日刊動労千葉

83. 9. 9

No. 1439

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八 (動力車会館)
(鉄電)二九三五六・(公衆)〇四七二二二七二〇七

議動「修正・削除」が議員代1/3=地本9

回39 動労本部 全国大会の反階級的方針に怒り集

動労「本部」第三九回全国大会は、動乗勤(内達一号)改悪、59・2貨物合理化、組合員の生活と権利を守る闘いを全面的に裏切り、動労千葉や国労を解体するという反階級的方針を決定しました。
こうした方針に反対し、労働組合の原則を守って闘おうと立ちあがった、動労内の良心的組合員と連帯し、すべての国鉄労働者の力で動労「本部」革マルの追放・一掃をかちとろうではありませんか。

九地本の代議員が削除・修正提案

すでに「日刊動労千葉」紙上で暴露、弾劾してきた通り、動労「本部」大会方針は、「冬の時代」を異常に強調したうえで「闘うべきではない」「職場と仕事と生活を守るために働こう」といつて合理化、既得権剥奪に全面屈服し、あろうことが闘う動労千葉や国労を「挑発者」として襲いかかるという、ファシスト労働運動に転落したものであります。

大会では、実に九地本、三分の一の弱の代議員から削除、修正動議が出されました。

とりわけ大会方針の核心である、運動の基調のなかの「国鉄『分割・民営化』阻止のたたかい」の項は全面削除が提案され、さらに「反合理化と労働条件改善のたたかい」のなかの「検修合理化―外注化」と、「動力車乗務員の効率化と運転保安(内達一号)にかかわる問題」についても削除、修正提案が行われました。

良心的代議員から 削除を要求された部分はこれだ

それでは、引用が長くなりますが、大会方針で削除が提案された項の主張の主旨を紹介します。

.....
運動の基調「国鉄『分割・民営化』
.....
阻止のたたかい」
.....

○ 「輸送量を増やせ、働く場所を確保せよ、減量経営には反対である」としてたたかっている。

○ 職場がなければストライキもできない、仕事もなければ入浴の必要もないわけであって、仕事があり職場があつてこそ、国鉄労働者として生活することができるわけです。

○ 諸情勢を冷静にとらえかえしてみるならば、そこにおいて国鉄労働者の明るい展望を見出すことは至難といふべきであり、その道は国鉄労働運動の終えんをも意味するのだ。

○ 動労の「職場と仕事を守る」方針にたいして、「働け働け運動」であるとか、「資本の軍門に下った動労」「産報化した動労」等という批判がなげかけられました。が、それではそのような批判をする人たちが、本当に国鉄労働者の利益を守るために献身的に取り組んでいるでしょうか。

○ ブル・トレ、職員乗車証、現場協議制度、57・11ダイ改、勤務時間内入浴問題、運転適性検査などの諸攻撃にたいして、大胆かつ率直な対応をもって組合員の利益を確保してきました。

○ 昇給協定改悪や内達一号および59・2ダイ改にかかわる基地問題についても、慎重かつ大胆な対応をもって組合員とその家族の利益確保に努力。

○ あらゆる非難と中傷をのりこえ、53・10ダイ改においては「貨物安定輸送」を対置してたたかい、検修外注化攻撃にたいしては、絶対反対の立場でたたかった貴重な経験もつています。そこにおける成果が貨物安定輸送においてたとえ限定された期間の成果であつたとはいえ、われわれの「職場と仕事を守る」たたかいは正しく証明された。

○ 生じるさまざまな対立や混乱は、国鉄労働者の利益を守るといふ一点において解決していく。

「原則を守り闘え」との修正提案

こうした反階級的方針に対し、良心的代議員から「労働運動の原則を守る闘い」「労働者として死守すべき基本ラインを明確に」「守るべき一線があります」「貨物安定輸送や検修外注化攻撃に対する「働き度」を高める」方針を否定的に教訓化する」との修正提案が出されたのです。

(以下次号つづく)